

【嫌われる、惨め】悪口や陰口を言う人
の心理を知り、今後一切言うのをやめよう

まとめ

「他人の不幸は蜜の味」とよくいうが、人は何で悪口を言うのでしょうか？

女性が井戸端会議が好きで悪口を言う人が多いのは悪口そのものがコミュニケーションツールになっている

生物学的にも団結することで輪を広げることにより安心感が得られるため

皆が思っていることを言うことで雑談が盛り上がり、そこに快樂があるため不思議な一体感が生まれ仲間意識が生まれる

人は本能的に防御本能で自分を守るために悪口を言って他人を落とし、身を守るものだという

どちらかが上、どちらかが正しいなどという業界の古い体質が残っているところほど、悪口や陰口がどんどんエスカレートしていく傾向にある

悪口を言っている時は気持ちがいいかもしれないが、形成が逆転し、今度はいつ自分が悪口を言われるかビクビクしなければならない

悪口の本質は自らの劣等感にあります

悪口を言う人は人間的に「小さい」

もし他人の悪口を好むのなら自分は劣等感が強い傾向にあるということに自覚したほうがいいのかも

悪口や陰口を言うことは、自ら自信がないということを宣言しているようなもので惨めで恥ずかしい行為です

この世に間違いを起こさない人間などいません。人間は必ず間違いを起こす生き物です

間違いは悪くありません、「学び」です

もしも誰かが不祥事を起こしたとしても、決して笑わずにいつか我が身と反面教師としてそこから学びましょう

現在、なにかの悪口の井戸端会議の一員になっていたなら、真っ先にその場から立ち去りましょう

悪い影響を受け、自分に最も大切な成長や発展の機会を失うからです

そのほうが幸せで豊かで悪口を言うくらいなら、その人の良い所、素晴らしい所を見付けて褒めませんか？

社会的に良い活動をしようとする時、必ずアンチが現れるので悪口を言われる覚悟を持つよう

悪口を言われている＝自分は影響力を与えられている、認められていると、前向きに捉えよう

悪口は言われてもいいが、自分の口から言うのは絶対にやめよう

相手が自分より上において、自分の名誉を傷つける心配がある場合、「相手を自分から遠ざけようとする心理」が働く

悪口を言うことで相手を自分より下にして自尊心を得ようとする

自分に自信がない人は、自らの自尊心の維持するためにターゲットに対して悪口を言うことで、相対的に相手の価値を下げようとする



誰かの陰口、悪口ばかり言う男性は、劣等感が強い傾向にあります

劣等感と自信のなさを隠したい

それはその人への僻み（ひがみ）でもあり、妬み（ねたみ）でもあります

実は、より自分が「劣っていること」を自ら宣言しているようなものなのです

もし自分に自信があれば、絶対に「他人の悪口」を言うことはありません

自分に自信がなく弱いから、先に攻撃して自尊心を補いバランスを保っているのです

一部の新聞、週刊誌など自分の利益を得るため

自分の利益を得るため

人を落として、今度は自分がその地位に上がるため。政治家などが顕著な例

はじめに

「他人の不幸は蜜の味」といいますが、なぜ人は悪口を言うのでしょうか？

どの職場にも悪口を言う人が一定数存在する

どの職場でもネガティブな会話が発生するのは、避けられない

人の噂話や悪口が大好きな人もいれば、そんな話は聞きたくないという人もいます

人の噂話や悪口を言うのを好むのはなぜなのでしょう？

そんな悪口を言いたくなる、言う心理について探求してみました

人が噂話や悪口を言う理由

話のネタがそれ以外にないから、とりあえず人の悪口を言う

知識、教養、社会情勢などの話を発展させる共通の話題をもっていない

そして人の噂話や悪口をいうことに対して「悪いこと」という認識がない

人とコミュニケーションをする「よいきっかけ作り」として噂話や悪口を利用している

誰もが知っている話題なので話のネタになりやすい

他人を落として自分は落ちないので、それを言うことでストレス発散になっている

悪口を共有することで他人との一体感と自分の安心感を得たい欲求がある

自分は一人じゃないと思いたいから

女性で悪口を言う人が多いのは、弱い立場なので輪を広げることによって安心感があるからとされている

悪口を言うことで雑談が盛り上がる場合が多くあり、ここだけの話だからという秘密の共有で一体感が生まれる

友達が多い人は結構悪口を言う人が多いという。共通の敵をグループの外に作り、内部は結託するため

自分が他人よりも上であることを誇示したい

他人をけなすことで、心理的に「自分の方が上」だと言いたい

足を引っ張ることで、自分の地位が上昇した気になる

単にその人に負けを認めたくないという心理、競争心、負けず嫌いな性格が働くので、あえてその対象者のことを悪く言っているのかも

深層心理的に、自分がその人よりも能力や容姿が上だということを、周囲の人に分かってほしいという願望がある

自分との違いを腹立たしく思う

性格が違いすぎるために短所ばかりが目についてしまう

どちらかと言えば仲が良いのに、主義の違いによって敵対視する関係になってしまうことがある。政治や宗教などによく見られる

どうしても両立できない違いが「憎しみ」を生むことがある

社会をよくしようと本音を暴露するため

自分と他人を比較する

自分の望んだ希望が叶わず、その人物をグループあるいはコミュニティにふさわしくない者だと周りに思込ませる作戦に出たりする